

目次

- P.1 「かわひらこ」に出会う
P.2-3 児童文学講演会
「絵本がうまれるとき」
P.4-5 図書館活用術
レファレンスサービス
P.6 トロロが生まれた街
「ところざわ」
編集後記

復刊 いざみ



「かわひらこ」に出会う 高橋こうじ

童話「不思議の国のアリス」は、時計を持った白うさぎを見たアリスが彼を追って不思議の国に迷い込む話ですが、私の場合、出会ったのは「かわひらこ」という言葉でした。二〇一〇年の秋、辞書で他の語を調べていたときです。

それは、蝶のことでした。平安時代、京都の人々が使っていた言葉で、おそらく、川辺をひらひら飛ぶ子、ということでしょう。なんと優雅で可憐な言葉！でも、今、この言葉を口にする人はいません。漢語の「蝶」が普及したため、忘れられてしまったのです。「そうか、どんなに魅力的な言葉でも、消えてしまうことがあるんだ……」

日本語の世界が不思議の国に変わった瞬間でした。それまでは、幾千の言葉がおとなく並んで出番を待っている、というイメージでしたが、実はあちこちで力比べや陣取り合戦が繰り広げられているのです。

そう思って、現在の日本語の世界を見渡すと、美しい響きを持ち

ながら、今、劣勢にある言葉がいくつも目にとまりました。それは主に、かわひらこと同じ大和言葉、すなわち日本生まれで、昔の人々の感性が伝わる単語。なのに、中国や西洋から伝わった漢語や外来語に圧倒されつつあるのです。たとえば「湯ぶね」。風情のある大和言葉ですが、今は「浴槽」や「バスタブ」と呼ぶのがふつうです。

「胸に染みる」「心を打つ」のようなしみじみとした大和言葉も「感動」という端的な漢語に押されてあまり使われません。突然ですが、ここでクイズを。金、銀、銅、突風、階段、アーチは、大和言葉で何と言うでしょう。答えは、こがね、しろがね、あかがね、はやて、きざはし、せりもち、です。どれも趣に富み、消えてもいい言葉は一つもありません。

私は奮い立ち、騎士となって不思議の国に乗り込みました。本を出版し、雑誌に文を書き、テレビに出て「美しい大和言葉を使いましょう」と訴えたのです。すると大きな反響があり、あれよあれよ

の間に「大和言葉の先生」と呼ばれるように……。

が、そこで、我に返りました。私はもともと、日本人が気づいていない日本語のおかしなところを見つけ、それをネタに読者が笑ってくれるクイズやコラムを書く、娯楽派の物書き。そう、「ホワイジャパニーズピープル！」と叫ぶ芸人、厚切りジェイソンさんの路線です。それが「かわひらこ」に出会い、不思議の国に飛び込んで「先生」になってしまいました。この先、この二つの顔をどう調和させればいいのでしょうか。

高橋 こうじ

一九六一年、所沢市生まれ。舞台、テレビの仕事を経て二〇〇〇年に文筆家に転じ、言葉と会話に関するエッセイを執筆。著書に『クイズで楽しむ日本語のふしぎ』（新水社）、『日本の大和言葉を美しく話す』（東邦出版）等

「絵本がうまれるとき」

平成30年3月18日(日) 会場 所沢図書館本館

講師 垂石 眞子氏



絵本、挿絵などを数多く手がけ、子どもの本の世界で大活躍されている垂石眞子さんをお招きしました。絵本は、どのようにしてうまれるのでしょうか。一冊一冊の絵本に込められた思いをお話ししていただきました。

『サンタさんから』

きたてがみ

たんのゆきこ／さく

垂石眞子／え (福音館書店)

この絵本にはねずみの郵便屋さんが登場しますが、このネズミを、どう描こうか考えていた時に、まずは自分の家に参考になるネズミはいないだろうかと考えました。

まだ、子どもが幼い時、福生市の米軍ハウスに住んでいたのですが、そこには、ハウスネズミという親指くらいのとても小さなネズミがいました。当初、それをモデルに描こうとしましたが、どうも

作中に登場するのは、森の中にいる大きいネズミのようでした。

そこで、上野動物園に電話してみると、猛禽類の餌になるための生きたネズミがいるということ、それを見せてもらいに行きました。

体は真っ白で、目が赤くて、尻尾はピンクのきれいなネズミで、それをスケッチさせていただくことになりました。

しかし、そのネズミは、小さい籠に入れられ、元気がなく、絵のモデルにならないのです。「どうせ俺は食べられちゃうんだよ。」というような感じで、つついても全然動きませんでした。困っていると、動物園の職員さんが、ネズミを譲ってください、自宅で描くことにしました。持つて帰る時に、いただいた小さい段ボールの箱にネズミをいれて、後で鳥かごに入れ替えようと思い、電車に乗っていました。すると、電車の中でそ

のネズミが俄かに元気になってしまつて、動物園にいたときと様子が全然違うのです。箱の中をぐるぐる回り、あろうことか箱をかじりだします。ここでネズミが逃げだしたら、と思うと、家に帰るまで気が気ではありませんでした。

家に着いて、ネズミを鳥かごに移し替えたのですが、まあ獐猛なこと。このネズミは、結局三度も脱走し、最後は捕まえることができませんでした。

ある日、庭で飼育しているチャボの餌箱の奥に穴が開いていることに気付きました。その中で脱走したネズミが元気に暮らしていることを知り、安心していました。ところが、ある夜、猫にやられてしまつて、ネズミには可哀想なことをしてしまつたと思います。それでも、こうして一冊の本として完成することができました。

『ぼくびょうき』

じやないよ

角野栄子／さく

垂石眞子／え (福音館書店)

この絵本には、熊のお医者さんのクマ先生が登場します。

私が絵を描くときは、まずは本

物を見てから描くことを信条にしているため、参考のために多摩動物園に向かいました。

何度も、熊を見に行く中で、あつ時、近くにおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に熊を見に来ていた小さな男の子がいました。

おばあちゃんは「くまさんだ。可愛いねえ。みてごらん。」と言いました。すると、男の子は「おばあちゃん、くまさんは可愛くないよ。怖いよ。」と言ったのです。

その時に、この子が言っていることは正しい、と思いました。そこにいたのは、ヒグマという大きな熊で、手も大きく、爪も鋭くて、一発でも殴られれば死んでしまいます。子どもが怖がつている様子を見て、熊のお医者さんは、ぬいぐるみみたいな可愛い熊を描いてはいけないと思いました。

子どもが絵を見たときに、これが熊だ、と思ってくれるようにしなければいけないので、怖いけど、優しい熊を描こうと思いました。

この熊を描く際に、一番苦労したのは、口が開く場面の絵でした。熊の歯が何本あるかを調べるために何度も口を開けさせようと思つて、誰もいないときにお菓子など

を投げたりしました。でも、多摩動物園の熊はそんなことをしなくても、前に出て、口を開けてきます。その瞬間に歯の数を数えましたが、全く分かりませんでした。

それで、おおよそで描いたものを、動物の絵を描く専門の藪内正幸さんにお見せしたところ、「大丈夫、合ってるよ。」と言っていただけ、完成しました。

したがって、『ぼくびょうきじゃないよ』に登場する熊は、多摩動物園に実際にいたヒグマがモデルになっております。

『おかあさんの』

おべんとう』

たるいしまこノ作 (童心社)

生活の中から、うまれた絵本の一例としてご紹介します。

登場人物のママちゃんのお母さんは絵を描くお仕事をしています。ですが、これはまさに私自身のお話です。

私の子どもが幼稚園児のときにお弁当を持って行かないといけないう幼稚園だったので、毎日お弁当を作っていました。その頃、私はとても忙しくて、頭の中が混乱しているような状態でした。

ある時、朝ごはんとお弁当と、

役員で集まるときに持ち寄る、一品料理を作らなければいけない日がありました。朝ごはんを作っている最中に、幼稚園児の長男が「ぼく、朝ごはんはおむすびがいいな。」と言ったのです。茶碗にご飯を一杯盛ればいいのに、わざわざおむすびにしてほしい、と言うので、なんて面倒臭いんだろう、と思ってしまうました。わかった、と返事をしたら、「塩むすびがいなあ。」と言うので、塩でむすんであげたら、今度は「海苔はー?」と言いました。その時、「はいはい、海苔ね。」と言って、すぐに出せばいいのに、「海苔を巻いてほしかったんなら、最初から言いなさい!」と言い、息子のまえに海苔をバンと置いたのです。息子はびっくりして、「・・・海苔いらぬい。塩むすびでいいよ。」と言い、そのおむすびを食べ始めました。そして嬉しそうに、「おいしいね、おいしいね、お母さんのおむすびっておいしいね。ぼく、お母さんのおむすび大好きだよ。」と言いました。

その声を背中中で聞きながら、ああ、私はなんてひどい母親なんだろうと、情けなくて涙があふれて

きました。

そして、その出来事から三十年以上経って、この絵本が生まれました。その時のことは、鮮明に記憶に残っていますが、そんな悲しい話ではなくて、絵本には私と全然違うお母さんが登場します。

自分の失敗を覆い隠そうと、また、息子への贖罪の^{しよくさい}意味を込めて作りました。息子は、きつとそんなことがあったことはもう忘れておりますが、喜んでもらえる嬉しいです。

絵本を作る時に

大切にしていること

「絵本は子どもが人生で初めて出会う美術書だ。」と思っています。

これは私の知っている美大の教授が、美術書と言わないで、絵本の登竜門だ、と言われたことがきっかけにありました。しかし、子どもが全員絵を描くことになるわけではないので、私の方で美術書という言葉に書き換えました。

子どもはまっさらな状態で絵本を見るので、犬や猫など現実にいるものを表そうとしたとき、まずはリアルに、そしてオーソドック

スに描くべきだと思っています。それが私の絵本を作る時の基本的な考え方です。

そして、私がもう一つ大事にしていることは、ユーモア・笑いです。そういうものを子どもの本にも、取り入れたいと思っています。確かに伝えなければいけないことや子どもの本にとって大事なことはたくさんありますが、できればそれをユーモアと笑いでくるんで送り届けたいというのが、私の願いであり、絵本を描き続けられる力になっています。

● 垂石眞子さん

たるいしまこ



神奈川県茅ヶ崎市出身。

現在は、東京都あきる野市在住。

多摩美術大学卒業後、サンリオに入社。退社後、子どもの本の世界に入る。

★作品

・「もりのおくりもの」シリーズ

・『月へミルクをとりにいったねこ』

(福音館書店)

・『あなたこそたからもの』(大月書店)

・『すききらいかいじゅう』(童心社)

など、他多数。

図書館活用術

Webサービス

○Webサービスって何？

みなさんの調べものや疑問に思ったことについて、図書館員が資料や情報を探しお手伝いをするサービスです。日常の中で、調べたいことや、わからないことがありますたら、お気軽にお尋ねください。各館のカウンターや電話でお受けしています。

○Webサービス

平成三十年六月から、図書館ホームページの「利用者のページ」からお申し込みができる、Webサービスの受付も開始しました。

*ご利用には、所沢図書館の利用券とパスワードが必要です。利用券とパスワードの発行は、図書館カウンターで受け付けています。住所の確認できるもの（運転免許証や保険証など）をご持参ください。



これまでに所沢図書館で解決した、皆さんの疑問(事例)の一部をご紹介します！

Q 所沢市に日本初の飛行場ができたのはなぜ？

A 落雷の危険が少なく、起伏が少ないことが選考の理由であったとされています。

【主な参考資料】
『ところざわ歴史物語』

(所沢市教育委員会)

『所沢市史 下』 (所沢市)



Q 所沢航空記念公園に銅像があるフォールについて、生没年、出身地、軍人、パイロットとしての経歴などを知りたい。

A

J・Pフォール大佐(一八六九年～一九二四年)は、大正八年(一九一九年)一月にフランス航空教官団として来日しました。「フランス陸軍の将校であると共に、当時第一級の操縦士として知られていた。」

「ソームミュール騎兵学校出身のフォール大佐は、フランス陸軍野砲連隊司令官を兼務していた優秀なフランス空軍士官だった。生涯結婚せず、



離日八年後にパリで死去するまで独身を貫いた生粋の陸軍軍人で第一次世界大戦では自身優秀なパイロットとして評判を得ていた。」などの記述があります。

【主な参考資料】

『ところざわ歴史物語』

(所沢市教育委員会)

『雄飛』

(所沢航空資料調査収集する会)

Q 三富(上富・中富・下富)の地名が江戸時代から使われているが、どうして現在の位置関係(東から上富)にあるのかを知りたい。

A 三富は元禄七年(九年(一六九四年～一六九六年)に開拓され、元禄九年に完成しました。川越城より方位をたて、上中下の三つに区割りして、上富村百四十八戸、中富村四十八戸、下富村五十戸の村を作りました。

【主な参考資料】

『武蔵国郡村誌 第四巻』

(埼玉県立図書館)

『新編武蔵風土記稿 埼玉編 上之巻二』 (千秋社)

Q 週という概念ができたのはいつ頃からか、また、なぜ「日月火水木金土」の順なのか知りたい。

A 週 の概念については諸説ありますが、旧約聖書に七日目を安息日とする記述があることが由来とされています。

また、日月火水木金土の順序については、地球から見た日・月および五惑星の配列によるものとされています。

【主な参考資料】

『暦の百科事典』 (本の友社)

『暦の大事典』 (朝倉書店)



Q 「い飯」の語源について知りたい。

たい。

A 『日本語源大辞典』に、「現代語のゴハンのもとになった漢語ハン(飯)は漢文の影響のうかがえる軍記や室町時代の物語から用例が現れ始める。女房詞ではこれにオ(御)を加えたオバンを使用し、それが近世に一般に広まったらしい。

近世末期にオをゴに替えたゴハンの形が現れる。「飯」の呼び方の変遷は、大まかにはイヒからメシへ、メシからゴハンへと、意識の上でより丁寧な言い方を指向したと言えよう」と記載があります。

【主な参考資料】

『日本語源大辞典』 (小学館)

『暮らしのことは新語源辞典』 (講談社)



Q レオナルド・ダ・ヴィンチ作「最後の晚餐」のメニューが知りたい。

A レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晚餐」の食卓には、魚料理(オレンジまたはレモンのスライス 添え)・オレンジ(またはレモン)・赤ワイン・パンが描かれています。『食べる西洋美術史』には「魚がいくつも盛りられた大皿があり、テーブルのあちこちに、魚の切り身にオレンジかレモンの薄切りが添えられた取り皿が置かれているのが見えるようになった。」との記述があります。

また、魚料理はウナギではないかという説があります。

【主な参考資料】

『食べる西洋美術史』 (光文社)

『LEONARDO 最後の晚餐』 (ニュートンプレス)

『ダ・ヴィンチの「最後の晚餐」はなぜ傑作か?』 (小学館)

『レオナルド・ダ・ヴィンチ復活』 (小学館)

『最後の晚餐』 (小学館)



Q さつま揚げの作り方を知りたい。

A 『基礎から始める釣魚で作る! 干物入門』に「アジのさつま揚げ」「イシモチのさつま揚げ」の作り方手順を写真で紹介しています。

【主な参考資料】

『基礎から始める釣魚で作る! 干物入門』 (日東書院本社)

『あじ・さば・いわし』 (日本放送出版協会)

『わが家の魚料理』 (扶桑社)



Q 童謡「通りゃんせ」の歌詞とその意味を知りたい。

A 諸説ありますが、童謡「通りゃんせ」は、川越市の三芳野神社が発祥と言われています。

『日本童謡事典』には、歌詞と解説があります。「三芳野天神は川越城本丸内にあるために警護が厳しく、往きは子供の七歳のお宮参りだと言えは通してくるもの、用が終った帰り道は詰問が一層厳しく、「帰りはこわい」の歌詞になったのだ」と記述があります。

【主な参考資料】

『日本童謡事典』 (東京堂出版)

『瓦版川越今昔ものかたり』 (幹書房)

その一からその十二』 (幹書房)

○最後に

この他にも、皆様から寄せられた事例の一部を、国立国会図書館の「レファレンス協同データベース」(<http://crd.ndl.go.jp/reference/>)を通して公開しています。また、所沢図書館のホームページでもご覧いただけます。

今後も、地域の情報の拠点としての確にご案内できるよう、一生懸命取り組んでいきます!

トトロが生まれた街 『とくろざわ』

所沢図書館本館の一階特集展示コーナーでは、平成三十年五月三十一日から六月三〇日までの期間中、**【宮崎駿さんに関する本】**の展示を行いました。



宮崎さんの代表作品、映画『となりのトトロ』は、所沢市内の自宅周辺を散策している際に着想を得たと話しており、また、劇中の田畑や雑木林も、近隣を参考にされています。(参考『トトロの生まれたところ』岩波書店)。
宮崎さんが所沢に越してくる前に、自身の居住場所を決める

条件の一つとして、「散歩したくなるような田畑・雑木林があるところ」を挙げていました。現在、所沢市は市内の四十パーセント以上が田畑や雑木林に囲まれており、昔ながらの風景もたくさん残っています。そのような街だからこそ、トトロが生まれたのでしょうか。
さて、今回の特集展示では、所沢図書館で所蔵している宮崎さんに関連した図書だけではなく、トトロの構想を練った場所として知られる「淵の森」の写真なども、展示しました。展示期間中は、大勢の方々に足を運んでいただきました。



また、展示終了後には、展示していた資料の多くが貸し出されたほか、宮崎さんの近著『トトロの生まれたところ』(岩波書店)にはたくさんの方の予約が入り、大きな反響がありました。

今回の特集展示を見過ごしてしまい、すごく残念だったという声も多く上がっています。そこで、今年の秋頃に**【第二回 宮崎駿さんに関する本】**(仮)の展示を予定しています。一回目の展示を見た方、見られなかった方も、是非この機会に、宮崎駿さんの世界をお楽しみください。



編集後記

生まれてから、所沢でずっと暮らしています。まさにトトロが現れそうな大自然ですが、年を重ねても、ここでのんびり暮らしたいです。
(H)

編集発行：所沢市立所沢図書館 〒359-0042 所沢市並木 1-13

ホームページアドレス パソコン <https://www.tokorozawa-library.jp/>

携帯電話 <https://www.tokorozawa-library.jp/k/>

スマートフォン <https://www.tokorozawa-library.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2018年 8月15日発行 復刊いずみ19号 (通巻97号)